

2023年7月14日

第36回 国際オープン韓国社会人剣道大会レポート

NPO 法人 国際社会人剣道クラブ
理事長 曾根 孝悦

2023年7月8日・9日にわたり韓国ソウル（オリンピック SK ハンドボール競技場）で開催されました標記韓国大会に参加、出場してきました。その概要をまとめて、以下に報告します。

韓国内外からの参加総数1,800名弱、海外から約80名、内日本・当クラブからは、川瀬会長を団長に28名の参加です。海外からの参加国は、日本の他、台湾、シンガポール、ベトナム、北京などでした。

当クラブ選手一同は、金曜7日にソウル入りして、歓迎会を兼ねた夕食を済ませ、そのまま会食会場でミーティングをしました。実質的な大会担当の東北クラブ、文載圭さんが大会スケジュール、試合会場等々、細かい点まで説明し、解散しました。翌日8日の8時から、個人戦の開始。試合会場は8会場。コロナ明けで参加者数、試合会場数等々規模が小さくなっていたようです。選手は準備運動もそこそこに、気合を入れていざ出陣です。それぞれが日ごろ鍛えた技と力をいかに発揮したのですが、結果は「高齢者と女性が活躍」ということにまとめられます。以下に敬称を省略して紹介します。高齢者の部では、優勝が関東クラブの真谷繁美、2位は同クラブ椎名四朗、3位には同じく小川 徹がそれぞれそれなりの結果を残しました。女性の部では、45歳以上で中国クラブの平岩香織が3位、35歳以下の部で鷹嘴 迪、大塚桜子が共に3位でしたが、ひいき目ではなくても大変惜しい結果ではありました。これから益々の精進、稽古に励んで、次には大輪の花を咲かせてほしいものです。

翌日9日は団体戦です。残念ながら、選手の奮闘むなしく特記すべき活躍はありませんでした。強いてあげれば、女性陣で、鷹嘴、池田、大塚チームがベスト8、大沼、及川、天田チームがベスト16、岩崎、平岩、安田チームがベスト32というところでした。男性陣は勇猛果敢に試合に臨んだのですが、思うような結果には結びつけることはできませんでした。

韓国剣道の傾向として、全体として非常に良くなっていて、動き、打ちにスピード感、パワーが感じられました。姿勢も良くなってきています。コロナ前に九州クラブが主管した全国例会を思いだしてください。この時にも韓国剣道の上達、進歩を肌身で感じたところです。

目印、審判旗についても、白と青から日本と同様、赤白になりました。いずれ近いうちに、試

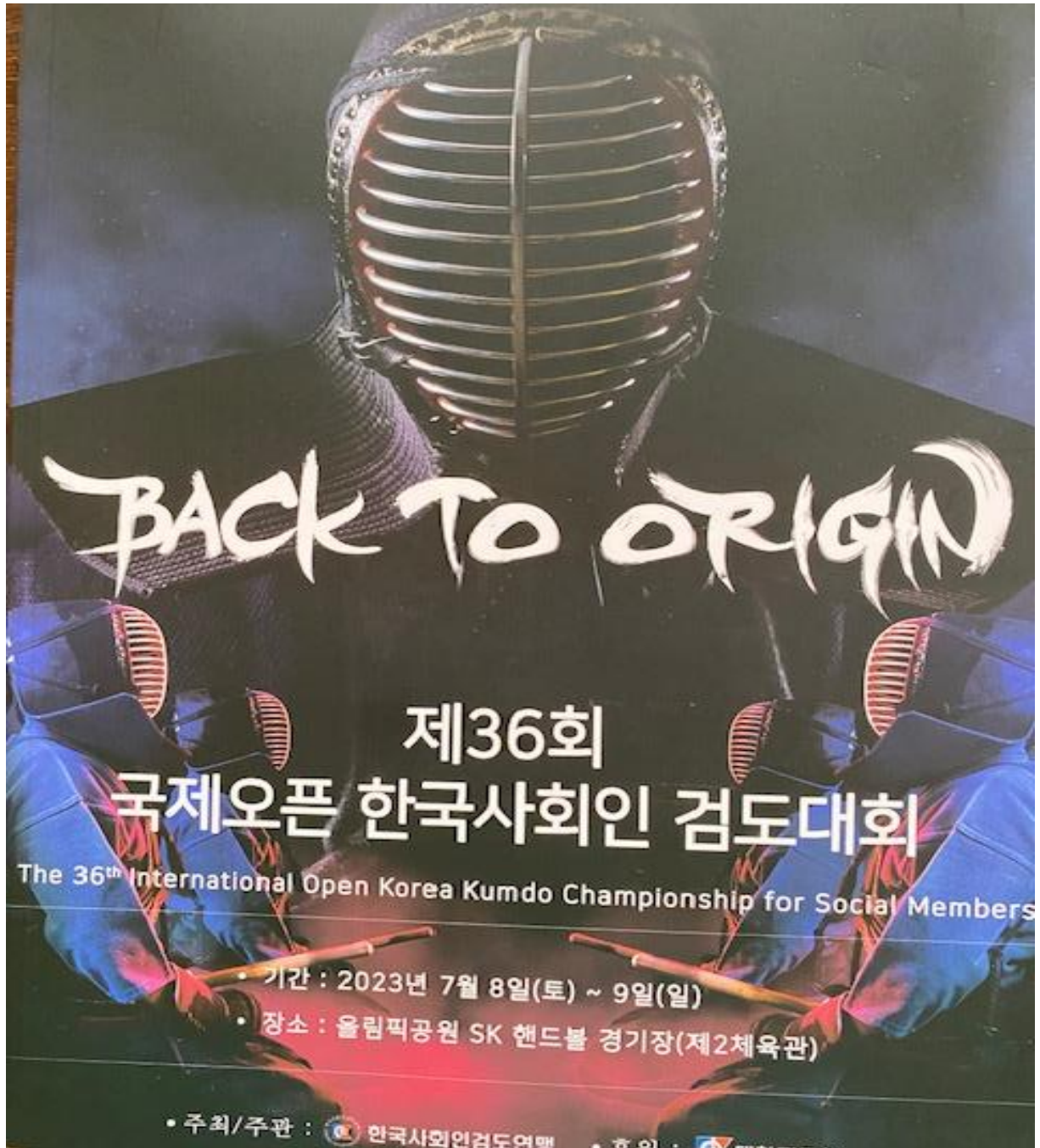
合の時には蹲踞をすることや袴の腰板も認めるなど大きな変化が見られます。

日本伝剣道を継承する我々は、自らの剣道稽古環境等を振り返り、よりよい剣道の未来に向けて、心を引き締めて精進をしなければならないと心に誓うものです。

緊張感に満ち溢れた試合会場の雰囲気とはしっかりと気持ちを切り替えて、歓迎パーティーやさよならパーティーでは懇親の花が咲き乱れました。韓国社会人剣道連盟の会長はじめ役員スタッフが一新され、運営等々ご苦勞はされていたようですが、一致団結、呉正泳会長を中心にまとまりのある運営がよくわかりました。心からのおもてなしに参加された各国の皆さんが大いに楽しみ、会話が弾んでいたように感じました。当クラブ川瀬会長には歓迎パーティーの開会であいさつが求められ、持田範士十段の朝鮮総督府時代のお話を交え、中身の濃い内容にまとめられていました。台湾の陳会長はパーティーでの主役で会場の雰囲気を大いに盛り上げてくれていました。三年間のコロナ中止もこれで解消されたこと間違いないでしょう。

韓国国際大会も大過なく、感染者も出さないで無事に終了しました。次はいよいよ11月に、東海クラブが主管して静岡県浜松市で開催される全国例会にお迎えする番になります。おもてなし、交流はもちろんのことですが、何よりも本文の剣道、試合、稽古で範を示さなければなりません。残り僅かになりますが、これから全国例会に向けて大いに精進稽古に励んでください。「さすがに日本、やることがお手本になる」といわれるように、言われなくても、そのような眼が注がれるように頑張りましょう。

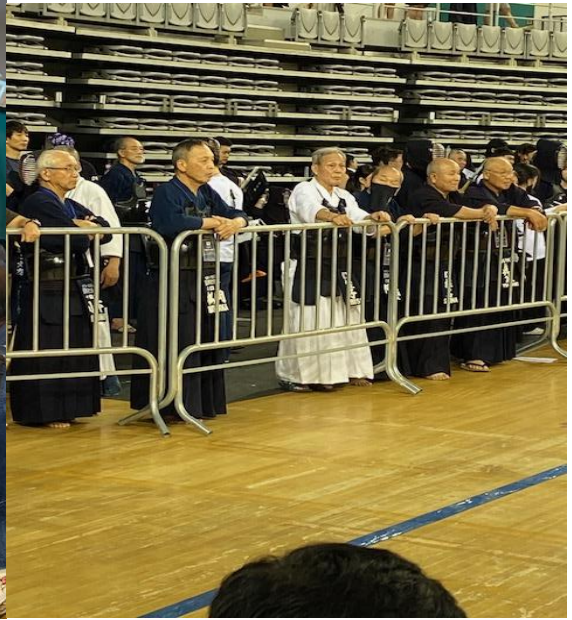
結びに、参加された選手、会員の皆様方のご協力、ご尽力に感謝し、これからますますのご活躍を祈念して韓国レポートといたします。



第 36 回韓國社会人劍道大会パンフレット 表紙



開会式



ウエルカム会食～試合風景





懇親会風景





試合風景 (男子個人戦)





女子中年入賞者



女子中年部 3 位入賞 平岩選手 (中国地区)